

国際教育プログラムに関する意識調査（結果）

(Mapping Generation Z Market Segmentation Study)

2017 年 9 月

公益財団法人 AFS 日本協会

約 60 カ国にパートナーをもつ AFS は、地球市民教育を推進するための国際教育プログラムを実施するにあたり、どのようなアプローチが有効か、プログラム参加にあたって何が障害となっているかを知るために、世界各国で中高生の意識調査を実施しています。

第 1 弾調査結果（27 カ国・約 5000 名の中高生が回答）

「What drives Generation Z to study abroad?」 <http://afs.org/research/>

この度、日本は第 2 弾調査に参加しましたので、その結果をお知らせします。

実施時期：2017 年 5 月～6 月

対 象：留学経験のない、日本国内の中高生（13 才～18 才）

回答方法：WEB フォーム

周知対象・方法：ホームページ、SNS、協会関係者・プログラム参加者の知人友人、
サマーキャンプ参加者など

回答人数：156 名（男性 23%、女性 77%）

本調査では、回答者を 4 つのセグメントに分類しています。

A) リズーム・パッカーズ RESUME PACKERS

経済的に余裕があり、自身の経歴に磨きをかけ、
よりよい職を得るために外国で質の高い教育を受けることを望む層

B) アカデミック・アチーバーズ ACADEMIC ACHIEVERS

外国で質の高い教育を受けることを望むが、経済的な余裕が少ないと思われる層

C) カルチュラル・フローターズ CULTURAL FLOATERS

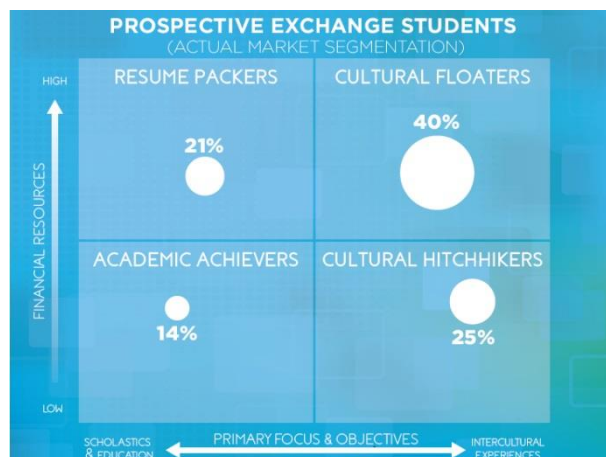
経済的に余裕があり、プログラムにおいては異文化体験に強い関心を寄せる層

D) カルチュラル・ヒッチハイカーズ CULTURAL HITCHHIKERS

異文化体験に強い関心を寄せるが、経済的な余裕が少ないと思われる層

■日本における分布

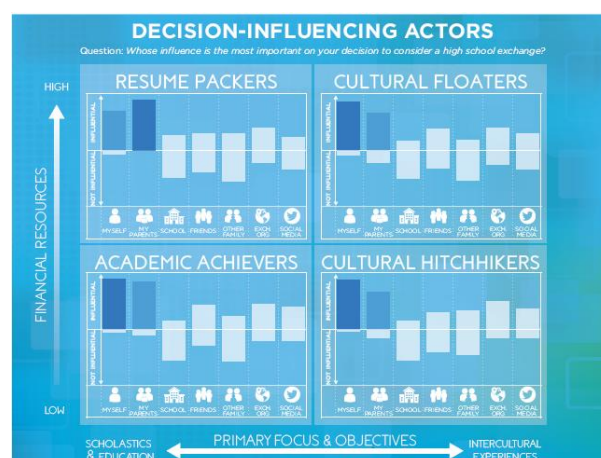
最も多かったのはカルチュラル・フロートーズで全体の 40%を占めました。次いでカルチュラル・ヒッチハイカーズ（25%）、リズーム・パッカーズ（21%）、アカデミック・アチーバーズ（14%）でした。なお、この分布は調査国によってばらつきが見られ、日本は比較的欧米諸国と似た結果となりました。



■プログラムへの参加決定に影響を与える人

どの層においても、自身の意志と保護者の影響が飛びぬけて強い結果となりました。

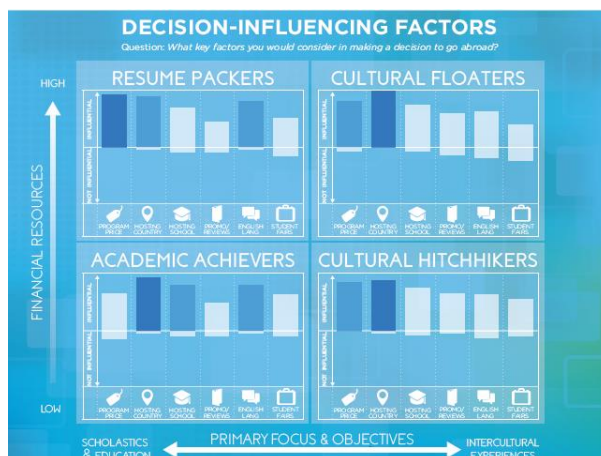
学校の先生を含めその他（友人、親以外の家族、交流団体、SNS）からの影響はさほど大きくありませんでした。



■プログラムの参加決定に影響を与える事柄

どの国に行くか（行けるか）ということが、どの層においても高い関心を集めました。参加費用に拠るという回答も多かったです。

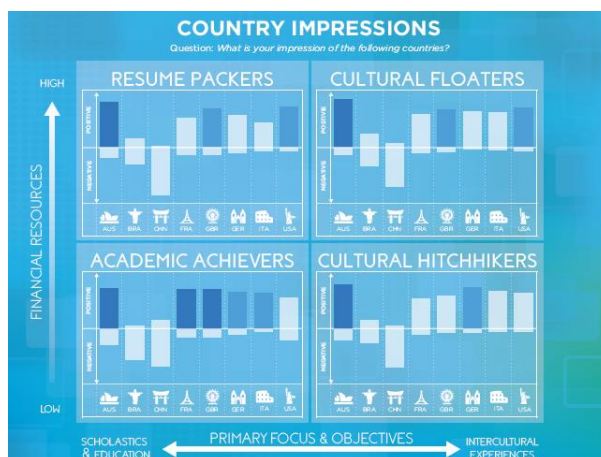
アカデミック志向のリズーム・パッカーズとアカデミック・アチーバーズは、行き先が英語圏であることが重視される傾向が見られました。



■国別の印象

（選択肢：AUS、ブラジル、中国、フランス、イギリス、ドイツ、イタリア、USA）

どの層にも好印象であったのはオーストラリア、次いで英語圏および西欧でした。ブラジルは印象が分かれ、中国は好印象ではない人が多い結果となりました。



■参加費

どの層でも「費用に関係なく行きたい国に行けるかどうかで選びたいがその中で少しでも安いものを探したい」という回答が目立ちました。

全額奨学金が得られた場合のみ留学したいと回答したのはリズム・パッカーズが最大で、次いでアカデミック・アチーバーズでした。

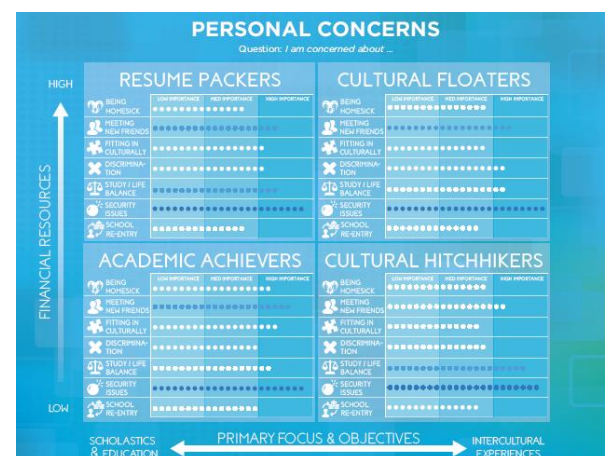
なお、本項目は調査実施国によってその割合や分布の差が比較的大きい傾向にあるようです。



■不安材料

どの層においても、治安が一番の不安材料でした。また、共通して「留学先で友人ができるかどうか」と「学業と生活のバランスがとれるかどうか」という点も不安材料になっています。

この項目も調査実施国によってばらつきがありましたが、他国と比較すると、日本はホームシックや復学への心配が低い傾向が読み取れました。



■プログラムの期間について

どの層においても、長期プログラムへの関心が高く、特にカルチュラル・ヒッチハイカーズはその割合が7割弱にのぼりました。次いで2ヵ月未満が20%程度、半年程度が15%程度と続きました。

